

① 前回の対策本部会議(3月20日)以降の新型コロナウイルス感染症の状況(世界の状況含む)と大阪府の状況に関する認識

委員	意見
朝野座長	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米の先進国でも急激な患者数の増加が続き、医療が追い付かなくなりつつある。欧米先進国の感染爆発の前には、先進国では、中国と同様のことは起こらないという侮りがあった。当院でも急激に悪化した重症患者を目の当たりにして、対策の必要性を強く認識している。 ・日本では、東京都において、この一週間で、感染経路不明者の増加が、オーバーシュート（+30%/日の指数関数的な増加）の様相を呈してきており、もはや日本も、クラスターの囲い込みだけでは、感染爆発を避けることができないと思う。しかし、一方で新たな感染場所としての夜の飲食店の存在も判明した。大阪においてはクラスターをできるだけ減らすことは、流行のピークを抑えることに未だ有効と考える。 ・現在みている患者は2週間前の感染者であり、これから対策を実施しても効果が出てくるのは2週間後だが、感染患者が急激に増えた時点では、非常事態宣言を出した欧米の先進国でも感染者数の増加に歯止めがかかっていない。大阪は、現時点では急激な感染数の増加はなんとか踏みとどまっているように見えるが、これから感染爆発が起これば、その時気付いて対策を立てたととしても、もはや手遅れである。
掛屋副座長	<ul style="list-style-type: none"> ・リンク不明の患者が数週前より増加してきているが、リンクが追える濃厚接触者も増えていることは、行政によるクラスター追跡や接触者の検査がうまく機能していると評価できる。 ・一方で数週間前には見られない海外渡航歴を有する患者の増加が見られている。卒業旅行や春休みの影響と考えられるが、今後しばらくの間のクラスター形成の火元となる可能性がある。
砂川オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所による熱心な積極的疫学調査と、その調査に対する府民の協力により、府内で確認された陽性者の感染リンクは一定程度追えてきた。 ・3月27日以降にリンク不明例の割合が急激に増加した点について、これまでと違った現象が発生しつつある可能性を考慮しなければならない。